

資料 6

平成 22 年度 共同研究会 第 1 回～第 5 回 記録

平成 22 年度 第 1 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 22 年 5 月 25 日（火）16 時 30 分～17 時 30 分

場 所：第二会議室

出席者：二見 浅井 黒田 白井 鈴木(二) 田野崎 増村 森 山舘 石綿 酒巻

1. 「平成 22 年度大学教育・学生支援推進事業：学士力をふまえた音楽教育充実プログラム」について

5 月 10 日（月）の運営委員会において応募することになった表記の補助金申請について、本共同研究を基礎として応募したことが報告された。

二見学長、高田学部長、榎部長、浅井先生、森先生を中心に検討し、酒巻を代表名として 5 月 17 日（月）必着便にて申請書を送付した。概要は以下のとおり。

（1）新カリキュラムについて

- ・「演奏研究」（仮称）：森先生、浅井先生からの提案に基づく。少人数のゼミ形式で行う実技の演習科目。アンサンブルを中心に、双方向の授業方法を取り入れる。
→ 次回、ピアノコースで作成しているシラバスを検討し、他のコースに拡大する可能性を探ることにした。
- ・「作曲家・作品研究」（仮称）：現在の「音楽芸術研究Ⅱ」を、他のコースにも開放する。
→ 同様に次回再度検討し、来年度のカリキュラム改訂に結びつけることにした。

（2）外国語教育について

- ・「A・T・R システム」（仮称）：英語の指導者が常駐する部屋を設け、学生の学習を支援する。
→ 実質的な効果を得られるよう、教員及び学生に対する周知方法と実施方法を考えることにした。
- ・教材の作成：現在進行中の英語の視聴覚教材と、イタリア語の共通単語帳について紹介された。

（3）短期大学コンサートについて

- ・コースを横断するコンサートを、2 年後に実施することにした。
- ・各部会・分科会で検討を依頼し、今後実現に向けて課題を解決することにした。

2. キャリア教育について（別紙資料）

鈴木先生、石綿先生から「キャリア教育①②」のシラバス案が提出された。

浅く広くテーマを網羅した形であることを確認した。

- 次回までに各自検討することにした。
 - ・通年科目か半期科目か。
 - ・必修科目とする場合、どこまでにするか。
 - ・内容の詳細について。

3. 「短大の歴史を語る」（仮題）講師依頼について

今年度も引き続きヒアリング、講演、原稿依頼等の形で実施することにした。

具体的には、二見学長、酒巻、声楽の教員を中心に検討する。

4. その他

次回研究会の開催予定：6 月 22 日（火）16 時より

以上

平成 22 年 度第 2 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 22 年 6 月 22 日（火）16 時 00 分～17 時 00 分

場 所：第二会議室

出席者：浅井 木村 黒田 田邊 山田 臼井 田野崎 増村 森 山舘 石綿 酒巻

1. 新設予定科目について

「演奏研究①」・「演奏研究②」について

森先生から、シラバス案（別紙）に基づいて説明があった。

- ・個人レッスンとは別の授業科目である。
- ・授業では、演奏解釈や作品理解のための分析等に重点を置く。
- ・「秋のコンサート」でのアンサンブル演奏を目標とする。

質疑応答など

- ・個人レッスンとの関係について。
 - ピアノ実技の習得及び演奏表現の具体的指導は、個人レッスンを中心に行う。連弾等では、これまでレッスンの先生に協力をお願いしてきた。今後具体的に調整し、運用について理解を得る必要がある。
- ・学生の実力に比べて、内容が高度ではないか。
 - 初見演奏は無理でも、簡単な楽譜を読むことから、応用力を養う。
- ・「ピアノ音楽史」が 2 回だけ置かれているが、その位置づけがよくわからない。
 - 1 年生に対する導入の目的であったが、再度検討する。
- ・演奏解釈は、人によってさまざまなものではないか。
 - 複数のピアノの教員が関わり、授業を協同運営する可能性を探る。CD 等での演奏の聴き比べも含む予定である。
 - アンサンブルを中心に、学生同士の意見交換や、学生と教員による双方向の授業方法を取り入れる。
- ・ピアノではこれまでの経験や実績があるが、声楽や弦管打楽器では、このままのシラバスでは難しい。
 - 当面、ピアノに限って考え、将来的に、声楽アンサンブルや器楽アンサンブルに発展させる可能性を検討してはどうか。

以上のような議論をふまえ、平成 23 年度に、ピアノコースに開講することを了承した。次回さらに詳細を検討して、教務委員会に提案することにした。

2. その他

次回研究会の開催予定：7 月 27 日（火）15 時 30 分より

以上

平成 22 年度 第 3 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 22 年 7 月 27 日（火）15 時 40 分～18 時 00 分

場 所：第二会議室

出席者：浅井 小山 黒田 田邊 山田 臼井 鈴木(二) 田野崎 増村 森 山館 石綿 酒巻
下八川(公)

1. 今年度の共同研究の進め方と『報告書』について

(1) 2 年計画の共同研究の成果をまとめる予定である。個人、あるいはグループの執筆予定を確認した。(順不同)

- ・黒田 「フルート教則本についての考察」を継続・発展させる。翻訳者の了解を得られたので、さらに内容を深める。
- ・増村 「フルート演奏、特に運指の技術」を継続し、「楽器の持ち方と組み立て方について」の具体的実践を加えて、図表、写真、譜例等を含めて内容を深める。
- ・鈴木・石綿 「短期大学におけるキャリア教育について」を継続・発展させる。卒業時を社会人としての入り口と位置づけて考察する。
- ・浅井・森 「秋のコンサート」の具体化をテーマとして、アンサンブルを主体とするピアノ教育の手法についてまとめる。
- ・臼井 「学生の演奏における諸問題」を継続・発展させる。初期の基礎教材、例えばソナチネにおいて、作品の形式“Form”について研究した上で、和声分析のような作品研究と演奏とをいかに結びつけ、何を表現するか、という問題を追求する。
- ・小山 「バレエコースの問題点とその対策について」、テーマを継続し、加筆・発展させる。
- ・山館 「自身の音楽体験の検証」をより具体的に考察し、学内外での指導の実践を含めて図や表を用いながら論ずる。
- ・田辺・山田 「教職学生アンケート」を継続する。前回は短大生のデータが少なかったため、現 2 年生で再度アンケートを実施することも検討する。
- ・酒巻 「音楽芸術研究Ⅱ」における教養教育の可能性」を継続、実践を報告する。
- ・木村・田野崎 「昭和音大におけるベルカント唱法の歴史」を継続させ、個人研究についても検討する。
二見学長との聴き取り調査については、星出先生、及川先生に依頼することを予定し、継続させたい。

(2) 『報告書』について

- ・体裁及び原稿の分量等については、前回の中間報告書を参考に再度検討する。
- ・提出締め切りについては、平成 23 年度中に製本を完成しなければならないかどうか、確認した上で検討する。

2. 教養教育とキャリア教育に関するカリキュラム検討について（別紙資料）

(1) 「ピアノ演奏研究①」・「ピアノ演奏研究②」

前回から継続し、森先生から、シラバス改定案（別紙）に基づいて説明があった。

- ・担当教員は、浅井先生と森先生の 2 人とし、1 クラス 10 人の 2 クラス同時進行を予定している。
- ・「秋のコンサート」に関する個人レッスンは、これまで同様 2 回受講することとする。
- ・授業では、演奏解釈や作品理解のための分析等に重点を置く。
- ・「秋のコンサート」での、アンサンブルによる演奏を目標とする。

質疑応答

- ・学生が授業に参加する姿勢に不安がある。例えば楽譜を用意してくるかどうか、など。

→ 楽譜を見ていなければ内容を理解することは不可能なので、授業内で指導し、授業の効果が損なわれないようにする。

- ・本来、CDやDVDの視聴は、学生の自主的な学習によるものではないか。授業内容としてそれでよいのか。
→ 自分の力で選んで聴く経験が不足しているからこそ、授業でさまざまな例を紹介し、演奏家についても学ぶ機会を提供する。学生どうしの意見交換もできる。

以上のような議論をふまえ、平成23年度に、ピアノコースに①・②（2年間）とも必修で開講することを了承した。ピアノ部会に報告し、短大の特色ある科目として、部会から教務委員会に提案してもらうことにした。

（2）「音楽人基礎①」・「音楽人基礎②」

- ・「音楽人基礎①」：半期2単位（15回講義）必修とする。
- ・内容については、これまで検討してきた「礼・節・技の人間教育」を実現するマナー教育と、キャリア教育とを結びつけたものとする。
- ・学部の内容と共有できるものについては、一部合同の授業も考えられる。
- ・「音楽人基礎②」：通年2単位（15回分）選択とする。
- ・内容については、現在キャリアサポート講座で実施している講座に出席し、レポート等を評価することによって、単位化を検討する。
- ・短大2年生の進路には学三編入も選択肢にあるため、必修は難しい。学部の内容とも異なると思われる。

（3）「総合教養」

現行 変更案

半期2単位：1年次 選択 → 1年次 必修

教室確保等、課題を伴うが、内容から見て、短大全コースで1年次必修にしたい。

（4）音楽芸術コース独自の必修科目の、他コース選択科目としての開放について

「音楽芸術研究Ⅰ①」通年3単位

後期の内容 → 「音楽コミュニケーション」（仮名）後期のみ1単位

「音楽芸術研究Ⅱ」通年2単位 → 「作曲家・作品研究」（名称変更）通年2単位

3. 英語個別指導について

補助金申請に際して人件費を計上して提案したが、現実的な対策を継続して検討する。
補習的な要素が強いが、キャリア支援も含めて、学部と共同で検討する。

4. その他

（1）本学におけるPDCAサイクルの成功例について

短期大学協会の運営問題委員会に報告するための例として、以下の案が示された。詳細については後日関係者と確認することにした。

- ・「芸術特別研究」の授業運用について
- ・時間割の作成について
- ・「音楽芸術コースコンサート」の企画と開催について

（2）次回研究会の開催予定：9月23日（木）16時00分より

以上

平成 22 年度 第 4 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 22 年 9 月 23 日（木）16 時 00 分～18 時 00 分

場 所：第一会議室

出席者：浅井 小山 木村 黒田 田邊 山田 白井 鈴木(二) 田野崎 増村 森 山舘 石綿 酒巻

1. 短大の新カリキュラム案について（別紙資料）

資料に基づき、新設科目、必修に改訂する科目、選択を拡げる科目について以下の通り確認した。
すでに各部会でも了承され、教務委員会でも承認されている。

「総合教養」	1 年次必修	半期 2 単位
「音楽人基礎①」	1 年次必修	通年 2 単位
「音楽人基礎②」	2 年次選択	通年 2 単位
「作曲家作品研究」	音楽コース 1 年次必修/他コース 1 年次選択	通年 2 単位
「ピアノ演奏研究①」	ピアノコース 1 年次必修	通年 2 単位
「ピアノ演奏研究②」	ピアノコース 2 年次必修	通年 2 単位

- ・「音楽人基礎①・②」については、学部で補助金を獲得したため、現在内容を検討中である。
- ・同時開講をふまえると未定の部分があるが、短大独自の特色も加えることを検討することにした。
- ・「ピアノ演奏研究①・②」については、当初の 2 コマから 1 コマの開講となったと報告された。

2. 『共同研究報告書』について

- ・報告書の完成は、来年度に入ってからでもよいとのことであった。ただし見積もりは今年度中に提出しなければならない。
- ・体裁及び原稿の分量等については、引き続き検討する。

3. その他

- (1) 声楽グループは、引き続き星出先生、及川先生へのインタビューを計画している。
- (2) 次回研究会の開催予定：11 月 2 日（火）15 時 30 分より

以上

平成 22 年度 第 5 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 22 年 11 月 2 日(火) 15 時 30 分

場 所：第二会議室

出席者：二見 浅井 木村 黒田 田邊 山田 鈴木(二) 田野崎 増村 森 山館 石綿 酒巻

1. 短大の新カリキュラムの運用について

「音楽人基礎①」（通年 15 回 2 単位）について、検討中の内容が紹介された。

<参考>

● 大人数に向けた講義

今年度の新入生オリエンテーション（出席必須）

- ・新入生ガイダンス②「学園のあゆみ」（4 月 1 日）
- ・新入生ガイダンス③「ステージマナー・鑑賞マナー」（4 月 1 日）
+ ビジネスマナー
+ 音大生のマナーと社会人としてのマナー
- ・新入生ガイダンス④「昭和音大での学び方のツボ」（4 月 5 日）
- ・新入生ガイダンス⑤「ショーワームが教える大学のツボ」（4 月 5 日）
- ・キャリアスタートテスト（4 月 2 日）
- ・キャリアスタートテストフィードバック（職業観）後日返却

● クラス授業

学部との調整が必要（合同または短大独自）複数クラス開講？クラス単位？

- ・卒業生ディスカッション
- ・キャリアについて考える：ディスカッション？
- ・情報との向き合い方

● キャリア支援講座より各自ピックアップし受講

● 15 回目：試験（レポート）

学部は「ポートフォリオ」を作成。4 年間の蓄積をデータ化する予定。

2. 『共同研究報告書』について

- ・文字数：A4 用紙（10.5 ポイント 40×40）5～6 枚程度（400 字詰め原稿用紙 20 枚 ～24 枚分）（昨年度は、A4 用紙（10.5 ポイント 40×40）5 枚程度）
- ・締め切り：平成 23 年 3 月 6 日（日）午後 10 時
（昨年度は 3 月の教授会で配付したため、2 月末日）
今年度は 3 月中に印刷経費の処理をし、4 月に配付予定

3. 共同研究会の今後について

新年度より新規の共同研究費を申請することはせず、自主的な研究会として、今後も定期的に短大教育の研究を継続する。

4. その他

次回の研究会開催予定：平成 23 年 1 月 25 日（火）16 時 30 分

以上

平成 22 年度 第 6 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 23 年 1 月 25 日（火）16 時 30 分～18 時 00 分

場 所：第一会議室

出席者：浅井 小山 木村 黒田 田邊 山田 臼井 鈴木(二) 田野崎 増村 森 山舘 石綿 酒巻

1. 短大の新カリキュラム案の最終確認について（別紙資料）

資料に基づき、新設科目、必修に改訂する科目、選択を拡げる科目について以下の通り確認した。
すでに各部会でも了承され、教務委員会でも承認されている。

- ・「総合教養」 1 年次必修 半期 2 単位
- ・「音楽人基礎①」 1 年次必修 通年 2 単位
- ・「音楽人基礎②」 2 年次選択 通年 2 単位
- ・「作曲家・作品研究」 音楽コース 1 年次必修/他コース 1 年次選択 通年 2 単位
- ・「ピアノ演奏研究①」 ピアノコース 1 年次必修 通年 2 単位
- ・「ピアノ演奏研究②」 ピアノコース 2 年次必修 通年 2 単位
- ・「音楽人基礎①」については、学部とともに現在内容を検討中である。

2. 『共同研究報告書』について

前回議事録により確認

3. その他 報告事項

(1) 11 月 4 日（木）に開催された「私立大学の教育・研究充実に関する研究会（短期大学の部）」

（主催：(財)私学研修福祉会）について

酒巻が出席した研修会について、別紙資料に基づき報告された。

(2) 11 月 8 日（月）に共同研究促進委員会で行われた「共同研究中間報告」について

現時点までの活動状況を報告し、継続が認められたことが報告された。

(3) 下八川圭祐先生と短大の音楽教育の歴史に関して実施したインタビューについて

星出先生（10 月 14 日）と及川先生（12 月 15 日）に実施されたことが報告された。

(4) 卒業生について

各教員が担当した学生について、卒業後の進路等について自由に情報交換をした。

- ・学三編入を果たした学生は、専門をさらに深めていく。
- ・専門を生かした職業に就くことを視野に、当面は他の生活手段を確保することを選択する学生もいる。
オーディションを受け続けることも考えている。
- ・臨時採用から教職に就くことのできた学生がいる。誠実な人柄が評価されて成功した例であり、言葉づかい、態度等の教育は大切である。
- ・社会人として仕事をしていれば、認められる。

以上